

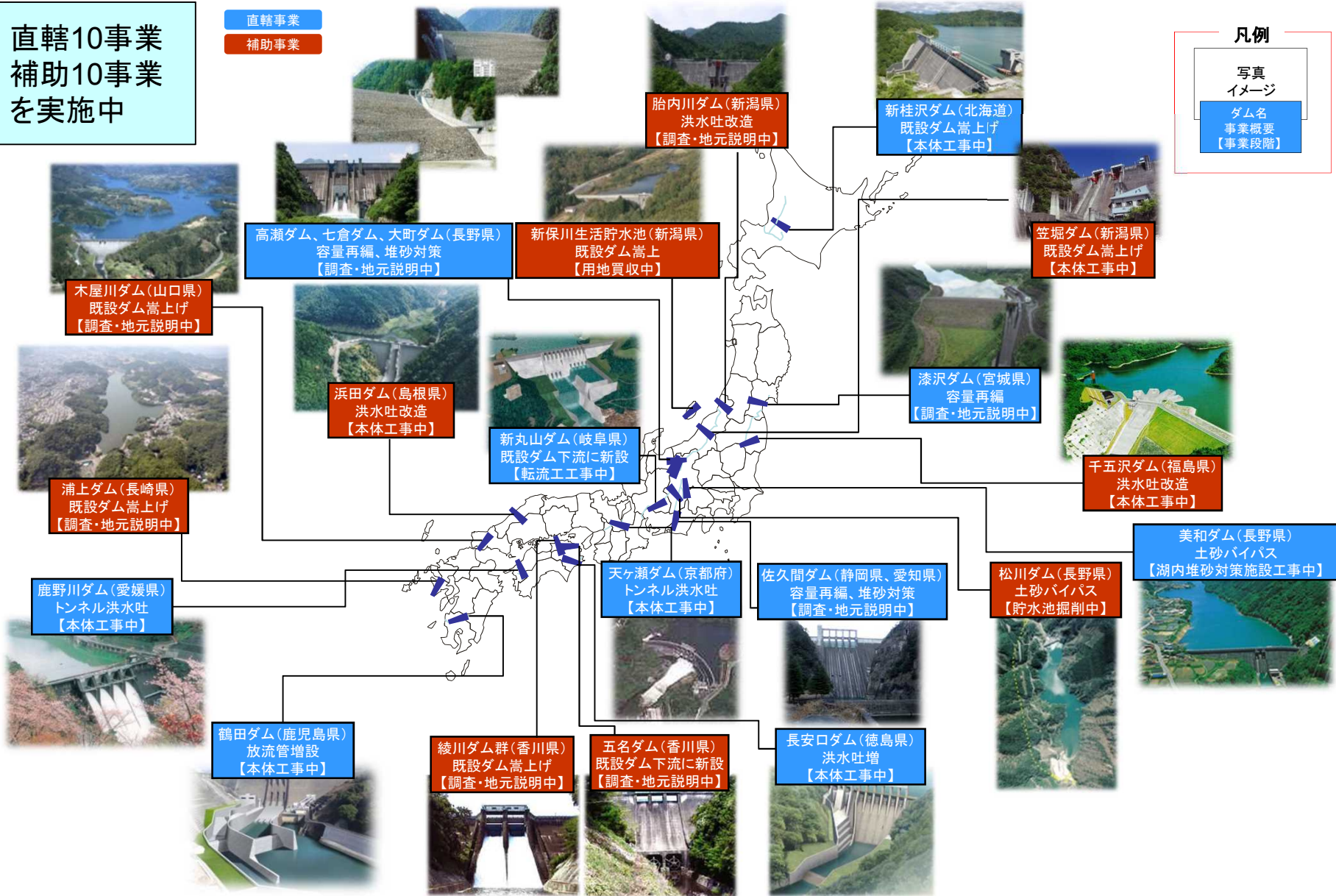
4. ダム再生事業の概要

現在事業実施中のダム再生事業

直轄10事業
補助10事業
を実施中

直轄事業
補助事業

凡例
写真
イメージ
ダム名
事業概要
【事業段階】

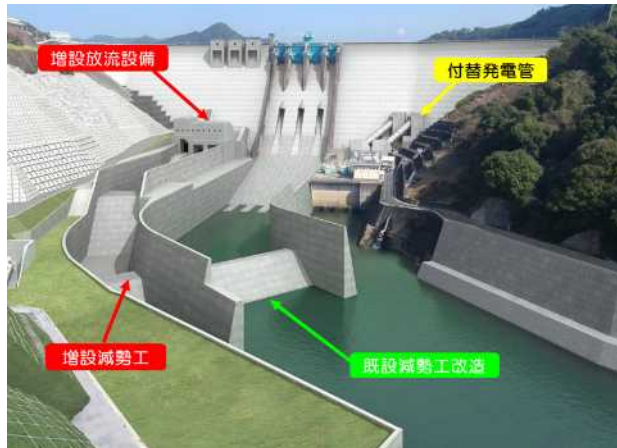


鶴田ダム再開発事業【九州地方整備局】
 「既設ダム堤体の削孔による放流管の増設」

○場 所 鹿児島県^{さつま}薩摩郡さつま町^{せんだい}（川内川水系川内川）

○工 期 平成19年度～平成29年度

○現 状 増設減勢工工事中（放流管は完成）



鶴田ダム再開発事業完成予想図



改造工事状況(H29.8)

天ヶ瀬ダム再開発事業【近畿地方整備局】
 「トンネル洪水吐の新設」

○場 所 京都府宇治市^{うじし}榎島町^{まきしまちょう}（淀川水系宇治川^{よどがわ}）

○工 期 平成元年度～平成33年度

○現 状 トンネル減勢池部及び流入部工事中



天ヶ瀬ダム再開発事業完成予想図



ゲート室部(H29.8)

長安口ダム改造事業【四国地方整備局】
「既設ダム堤体の切削による洪水吐の増設」

○場 所 なかがん なかちよう なかがわ 徳島県那賀郡那賀町(那賀川水系那賀川)

○工 期 平成19年度～平成40年度

○現 状 堤体切削工事中



長安口ダム改造事業 完成予想図



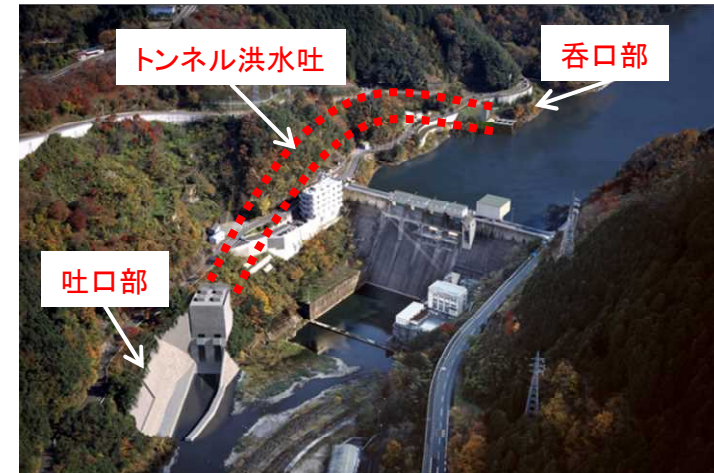
堤体切削状況(H29.8)

鹿野川ダム改造事業【四国地方整備局】
「トンネル洪水吐の新設」

○場 所 おおず ひじかわちよう ひじかわ 愛媛県大洲市肱川町(肱川水系肱川)

○工 期 平成18年度～平成30年度

○現 状 トンネル洪水吐呑口部及び吐口部工事中



鹿野川ダム改造事業完成予想パース図



トンネル洪水吐 貫通(H27.12)

雨竜川ダム再生事業(実施計画調査段階)

事業概要

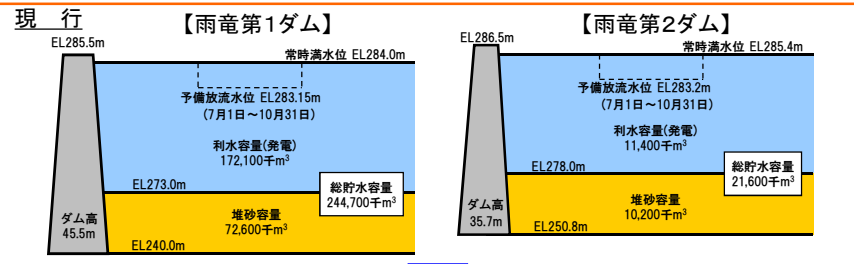
- 場所 雨竜郡幌加内町朱鞠内(雨竜第1ダム)
雨竜郡幌加内町宇津内(雨竜第2ダム)

【雨竜第1ダム(容量振替)】 石狩川水系雨竜川

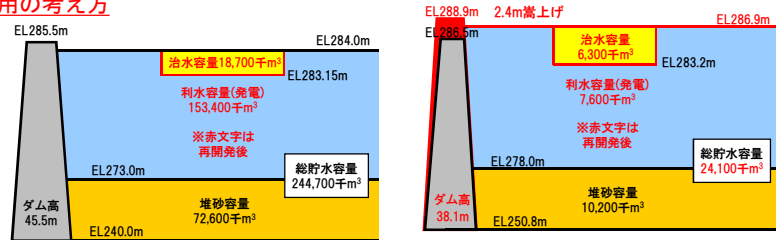
- 目的 洪水調節、発電
- 諸元 ダム高45.5m、総貯水容量244,700千m³

【雨竜第2ダム(嵩上げ、容量振替)】

- 石狩川水系ウツナイ川
- 目的 洪水調節、発電
- 諸元 ダム高38.1m、総貯水容量24,100千m³



活用の考え方



事業の効果

河川改修に併せて、雨竜第1、第2ダム(昭和18年より運用開始)を有効活用(かさ上げ、容量振替)することにより、戦後最大規模の昭和56年8月洪水(下流部)・平成26年8月洪水(中上流部)と同規模の洪水に対して浸水被害を概ね解消する。



主な災害

洪水	雨竜川の被災状況
S56年 8月 洪水	床上浸水：130戸 床下浸水：438戸 浸水面積：2,242ha
H26年 8月 洪水	床上浸水：11戸 浸水面積：258ha

【H26.8洪水 幌加内地区】



<戦後最大規模と同規模の洪水の被害軽減効果>

浸水世帯数：(整備前)約630世帯 → (整備後) 0世帯
 浸水面積：(整備前)約2,000ha → (整備後)約150ha
 ※雨竜川ダム再生事業及び河道整備完了後

○全体事業費 約190億円

矢作ダム再生事業(実施計画調査段階)

事業概要

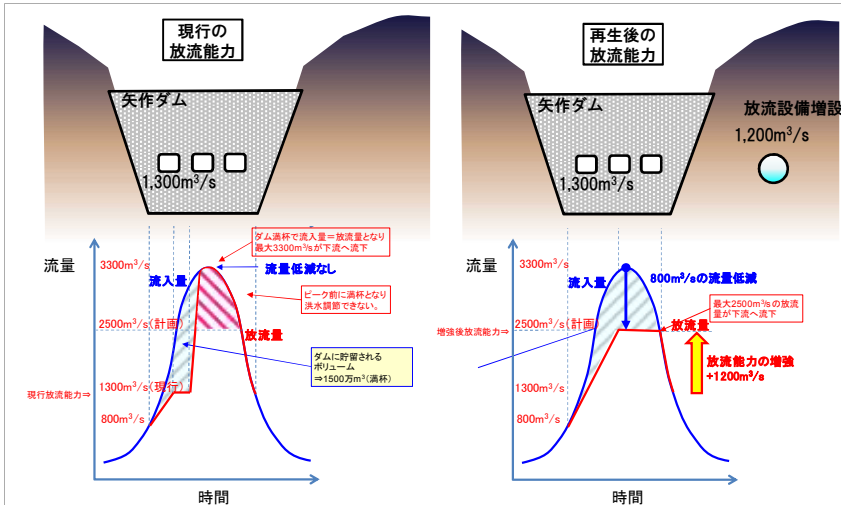
○場所 左岸:愛知県豊田市 右岸:岐阜県恵那市

【矢作ダム(放流設備増設)】 矢作川水系矢作川

○目的 洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、水道、工業用水、発電

○諸元 ダム高100m、総貯水容量80,000千 m^3
現況最大放流量:1,300 m^3/s

〔・放流設備の増設〕



事業の効果

河川改修に併せて、矢作ダム(昭和46年より運用開始)を有効活用(放流設備増設)することにより、戦後最大規模の平成12年9月洪水と同規模の洪水に対して浸水被害を解消する。

<戦後最大規模の洪水と同規模の洪水の被害軽減効果>

浸水世帯数: (整備前) 約9,200世帯 → (整備後) 0世帯

浸水面積: (整備前) 約570ha → (整備後) 0ha

※矢作ダム再生事業及び河道整備完了後

○全体事業費 約390億円



主な災害

洪水	矢作川流域の被災状況
H12年9月洪水	床上浸水: 790棟 床下浸水: 1,962棟 浸水面積: 1,789ha



早明浦ダム再生事業(建設段階)

事業概要

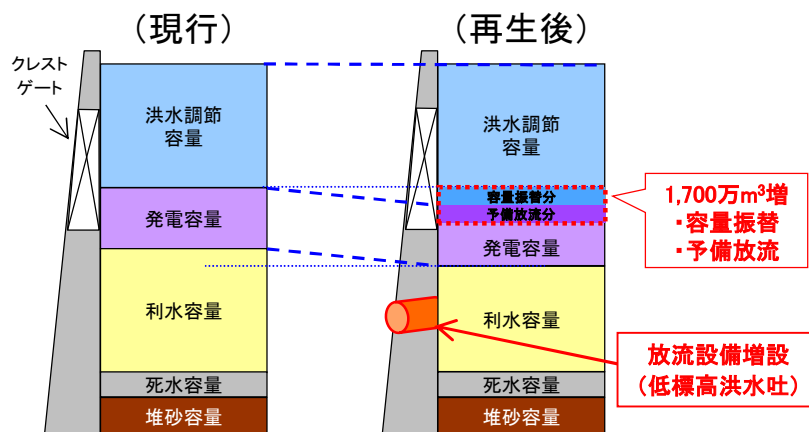
○場所 高知県長岡郡本山町、土佐郡土佐町

【早明浦ダム(放流設備増設、容量振替等)】吉野川水系吉野川

○目的 洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、水道、工業用水、発電

○諸元 ダム高106m、総貯水容量316,000千m³
現況最大放流量: 1,300m³/s

- ・放流設備の増設
- ・既設ダムの他容量からの転用による治水容量増大



主な災害

洪水	吉野川の被災状況
S49年9月 洪水	床上浸水: 362戸 床下浸水: 2,439戸 浸水面積: 3,144ha
H16年10月 洪水	床上浸水: 745戸 床下浸水: 1,975戸 浸水面積: 7,645ha



S49.9月洪水 氾濫状況(美馬市)



H16.10月洪水 氾濫状況(東みよし町)

事業の効果

河川改修に併せて、早明浦ダム(昭和50年より運用開始)を有効活用(放流設備増設、容量振替等)することにより、戦後最大規模の平成16年10月洪水と同規模の洪水に対して浸水被害を解消する。

<戦後最大規模の洪水と同規模の洪水の被害軽減効果>

浸水世帯数: (整備前) 約5,000世帯 → (整備後) 0世帯

浸水面積: (整備前) 約2,000ha → (整備後) 0ha

※早明浦ダム再生事業及び河道整備完了後

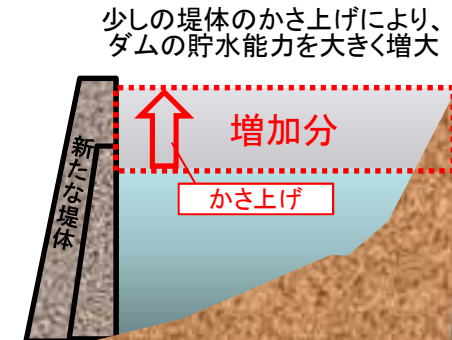
○全体事業費 約400億円

ダム再生計画策定事業の創設(社会資本総合整備)

○既設ダムの有効活用をより一層推進するため、都道府県が実施するダム再生計画の策定について、新たに「ダム再生計画策定事業」を創設し、堰堤改良事業の交付対象に追加する。

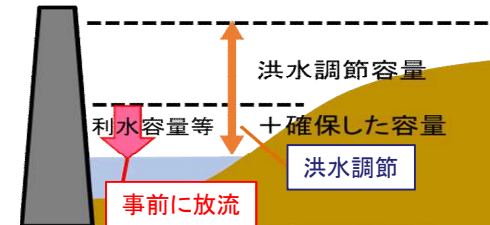
【ダム再生ビジョンに記載のある取組】

- ・ダムの長寿命化
- ・維持管理における効率化・高度化
- ・施設能力の最大発揮のための柔軟で信頼性のある運用
- ・高機能化のための施設改良
- ・水力発電の積極的導入
- ・河川環境の保全と再生
- ・ダムを活用した地域振興
- ・ダム再生技術の海外展開
- ・ダム再生を推進するための技術の開発・導入



堤体を2割かさ上げ、貯水容量を6割増

利水容量の一部を事前に放流し、洪水調節に活用



ダム再生の取組に係る計画策定を新たに交付対象に追加